



女性消防団について。

About Lady's Fire Volunteer

富山県においても、395名(平成24年4月1日現在)の方が女性消防団員として活躍されています。



活躍する女性消防団員。

消防団は火災現場等での消防活動などを行うことから、男性しかないと考えがちですが、多くの女性が消防団に入団し活躍しています。全国的に消防団員総数が減少する中、女性消防団員は年々増加しています。(下図参考)

女性ならではの仕事。

女性の持つソフトな面を活かし、住宅用火災警報器の設置促進や一人暮らしの高齢者宅の防火訪問、住民や児童に対する防災教育や防火啓発活動、応急手当の知識習得や普及指導等において、大きなチカラを発揮しています。



消防団について。

About Fire Volunteer

富山県においても、全市町村に消防団が組織され、9,594名(平成24年4月1日現在)の方が消防団員として活躍しています。

地域防災の要。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災や各地で発生している豪雨災害においても、住民の避難誘導や救助活動など、消防団が果たした役割は大きく、地域に密着して活動する消防団は、地域防災の要として大変重要な役割を担っています。

地域を大切にする気持ち。

消防団員は市町村の非常勤の特別地方公務員として出動手当て等が市町村から支給されますが、団員の多くはボランティア精神と「自らの地域を自らが守る」という郷土愛護の精神に基づき、活動に従事しています。

活躍の場は様々。

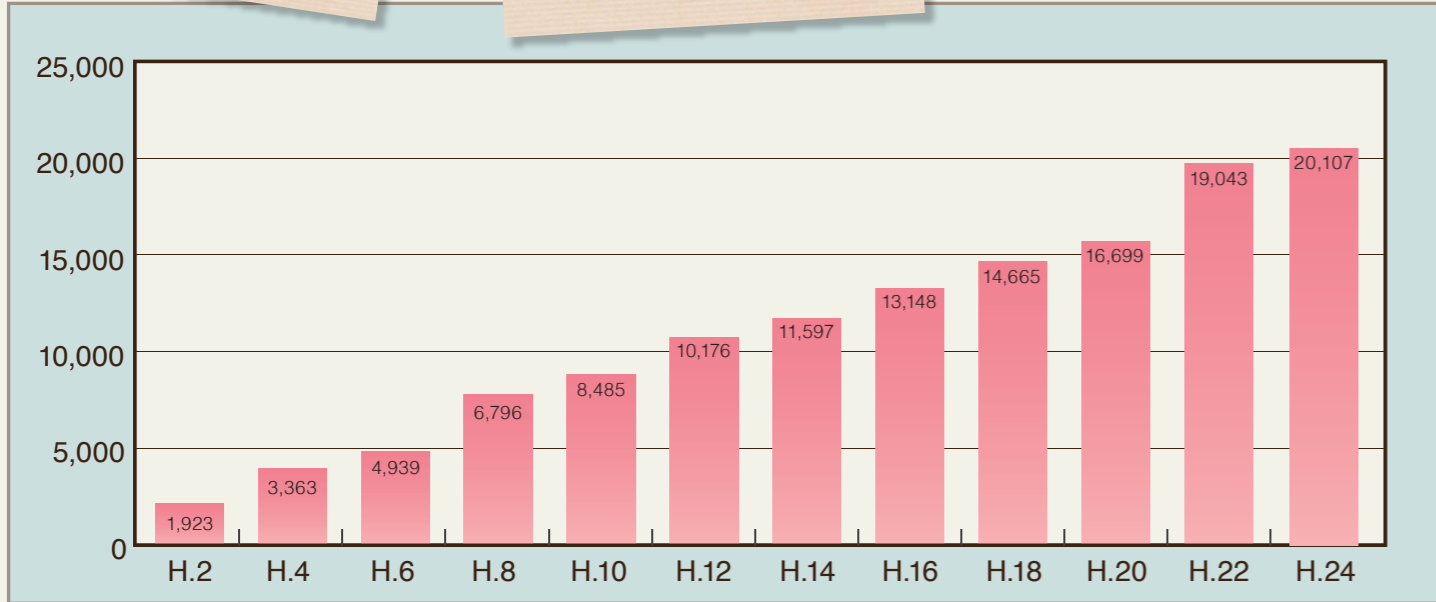
消防団の活動は、火災、事故あるいは災害などが発生した際の消防活動のほか、火災予防活動や、地域の防災訓練等の各種行事への参加など多岐にわたり、地域コミュニティの中核的存在として、地域に根ざしています。

古くは江戸時代から。

消防団とは、火災や災害などが発生した際に専門職である消防士とともに災害現場で消防活動に従事する、他に本業を持つ一般の市民で構成された団体です。その歴史は古く、江戸時代の町火消を源流として、明治時代に消防組、昭和の戦後に消防団と変遷をたどり、現在に至っています。



ちょっと詳しく



全国の女性消防団員数の推移



消防団の歴史



消防団の歴史は古く、江戸時代に8代将軍徳川吉宗が、江戸南町奉行の大岡越前守に命じ、江戸に町火消しが誕生したのは、1718年(享保3年)のこと。当初は、一つの町から2〜5人の火消しを出して町火消しをつくったが、翌1719年(享保4年)には有名な「いろは四八組」ができあがる。これが今日の消防団の前身といわれています。その後、明治時代には、「消防組」、昭和の戦前は「警防団」として名称や組織形態を変えていき、戦後「消防組織法」の制定にともない、現在の消防団が組織されました。

女性消防団員の色々

1 報酬及び手当への支給

消防団員に対して年額報酬、出勤した際の出動手当てが支給されます。
※年額報酬及び出動手当ては各市町村の条例によって定められています。

2 退職報償金の支給

各市町村の条例に基づき、団員の階級及び勤務年数に応じて退職報償金が支給されます。

3 公務災害補償

消防団活動がしほは危険な状況のもとで遂行されるため、公務上の災害で被った損失が補償されます。
〔補償制度〕療養補償、休業補償、傷病補償、年金、障害補償、介護補償、遺族補償及び葬祭補償

4 福祉事業

公務災害補償を受ける被災団員又はその者の遺族の福祉に関して必要な事業が、市町村等によって行われております。
〔内容〕外科後処置、補装具、リハビリテーション、療養生活の援護、介護の援護、就学の援護等

5 被服の貸与

消防団活動の際に着用する活動服やヘルメット等の被服が各市町村から貸与されます。

6 表彰制度

消防の任務は著しく困難で危険性が高く、その功労に報いるため、左記のような種々の表彰制度が設けられています。
国の表彰：消防庁長官表彰等
県の表彰：富山県知事表彰(功績章、精勤章等)
市町村の表彰：各市町村の表彰規則により表彰